

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

1 調査の概要

(1) 調査の目的

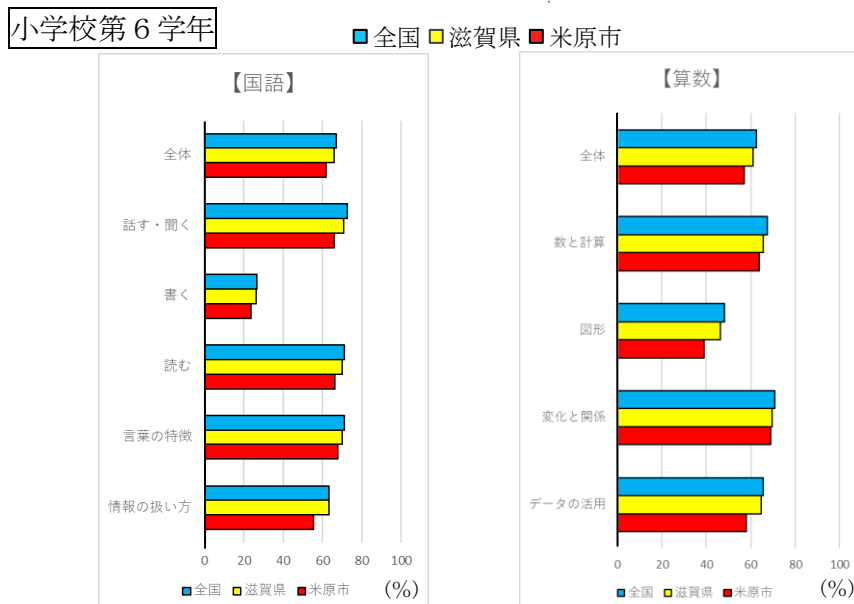
義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象および内容

- ・ 調査対象 … 小学校第6学年（市内9校）323人、中学校第3学年（市内6校）292人
- ・ 調査内容 … 教科に関する調査
 - ・ 小学校第6学年：国語、算数（各45分）
 - ・ 中学校第3学年：国語、数学、英語（各50分）生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ・ 児童生徒に対する調査（20～40分程度）
 - ・ 学校に対する調査
- ・ 調査期日 … 令和5年4月18日（火）
中学校英語「話すこと」、児童質問紙オンラインについては期間内実施

2 教科に関する調査の結果

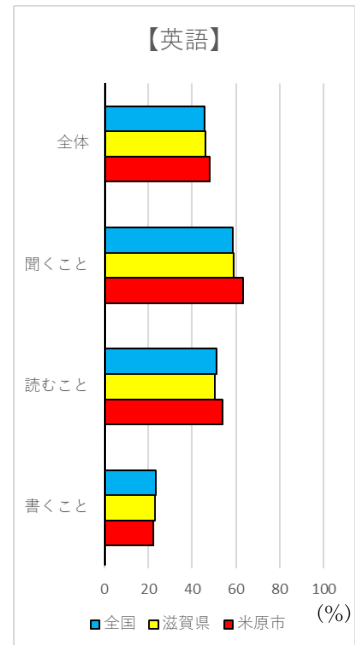
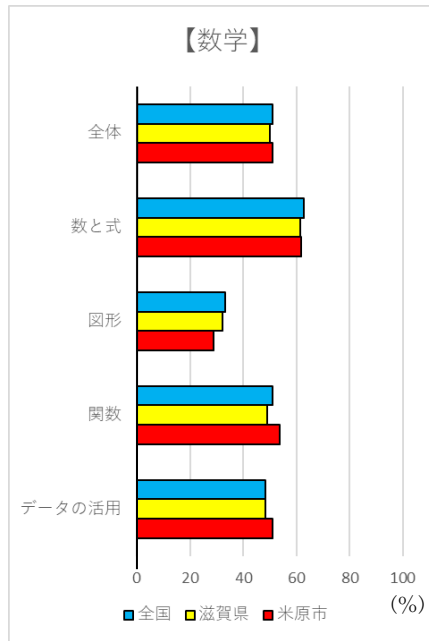
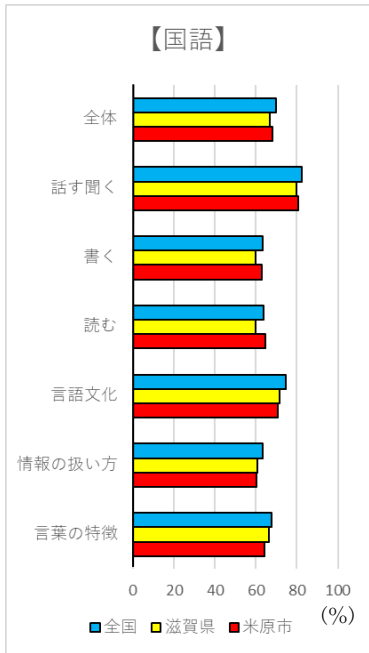
(1) 標準学力調査の平均正答率



国語は滋賀県、全国平均と比べて下回る。特に、「情報の扱い方」「話す・聞く」に課題がある。
算数は滋賀県、全国平均と比べて下回る。特に、「図形」「データの活用」に課題がある。

中学校第3学年

■全国 ■滋賀県 ■米原市



国語は滋賀県、全国平均と比べてわずかに下回る。「言葉の特徴」「言語文化」に課題が見られる一方で、「読むこと」では、滋賀県、全国平均を上回っている。
 数学は滋賀県、全国平均と比べて同じかわずかに上回る。「図形」に課題が見られる一方で、「データの活用」「関数」では、滋賀県、全国平均を上回っている。
 英語は滋賀県、全国平均と比べて上回っている。「書くこと」に課題が見られる一方で、「読むこと」「聞くこと」では、滋賀県、全国平均を上回っている。

(2) 正答率が低かった問題

①小学校第6学年【国語】「読むこと」「思考・判断・表現」

【資料2】運動について書かれたパンフレットのページ

運動で健康な体をつくろう！

運動には、筋力や持久力などを高めるほかに、病気への抵抗力を高める効果もあります。また、運動によって気持ちがリフレッシュするなどの効果もあります。

どんな運動をするといいの？
 運動をする際、自分に合った運動を選んで行うことが大切です。主な運動の種類には、下のように、軽いジョギングなどの持久力を高める運動や、腹筋運動などの筋力を高める運動があります。そのほかにも、体のやわらかさを高める運動や、たくみな動きを高める運動などがあります。

このような運動は日常生活の中にもあります。例えば、休み時間の外遊び、犬の散歩、階段の上り下り、荷物運びなどです。日常生活の中で体を動かす機会をつくると効果的です。

主に持久力を高める運動の例

軽いジョギング 縄とび(続けてとぶ)

主に筋力を高める運動の例

腹筋運動 腕立てふせ

2

相田さんの学級では、健康に過ごすために、複数の文章を選んで読み、自分ができそうなことを考えてまとめることにしました。次は、「相田さんの考え」と、相田さんが知りたいことを調べるために選んだ【資料1】、「資料2」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【相田さんの考え】

ぼくは、運動の面から考えてみたい。運動をすると健康にどんないいことがあるのかな。

【資料1】運動について書かれた本の一部

運動は、体力の向上につながります。そのため、子供からお年寄りまで適度に運動をすることが大切だと言われています。私たちが日ごろ行っている運動には、いくつかの種類があります。例えば、体にたくさんの酸素を取り入れながら続けることで持久力を高める運動や、瞬間的に大きな力を出すことで筋肉の力を高める運動などです。生活の中に自分が好きな運動を取り入れれば、続けて取り組むことができます。その際は、目的に応じた運動を選ぶとともに、健康状態や体力に合わせて自分のペースで行うことが大切です。

相田さん

二 相田さんは、「資料1」と「資料2」を読んで分かったことをメモにまとめています。次の「相田さんのメモ」の「ア」に当てはまる内容として最も適切なものを、下の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

【相田さんのメモ】

◇持久力を高める運動
 ・ たくさん酸素を取り入れながら続ける
 ・ 軽いジョギング
 ・ 縄とび（続けてとぶ）

ア

- 1 ◇体のやわらかさを高める運動
 ・ ふっくら運動
 ・ うで立てふせ
- 2 ◇体のやわらかさを高める運動
 しゅん間的に大きな力を出す
 ・ うで立てふせ
 ・ 縄とび（続けてとぶ）
- 3 ◇きん力を高める運動
 しゅん間的に大きな力を出す
 ・ ふっくら運動
 ・ うで立てふせ
- 4 ◇きん力を高める運動
 たくさん酸素を取り入れながら続ける
 ・ ふっくら運動
 ・ うで立てふせ

三 相田さんは、食事の面から健康について考えている友達の話聞いて、「資料3」に興味をもちました。次は、相田さんが、四角や丸で囲んだり線をつないだりして整理している「資料3」です。相田さんは、何をどのように整理していますか。その説明として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

【資料3】 相田さんが書きこみをしたパンフレットのページ

栄養素の働き

規則正しく食事をとることにより、脳が活発に働いたり、元気に運動したりすることができます。ただし、同じものや好きなものばかり食べていると、栄養がかたよってしまい、つかれやすくなったりいらいらしたりします。

食品は、栄養素の主な働きによって、下のように、主に三つのグループに分けることができます。

米やパンなどは、主にエネルギーのもとになります。



肉や卵などは、主に体をつくるもとになります。

筋肉がついたり、けがが治りやすくなったりします。

野菜や果物などは、主に体の調子を整えるもとになり、病気にかかりにくくなります。



(栄養素の主な働きと食品の例)

主にエネルギーのもとになる



米、パン、バターなど

主に体をつくるもとになる

肉、卵、牛乳など

主に体の調子を整えるもとになる

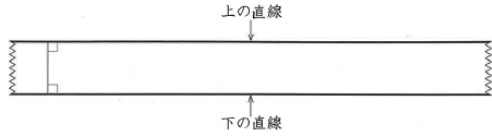
野菜、果物など

- 1 自分にとって分からない言葉を四角や丸で囲み、運動と栄養素の働きとの関係を線でつないで整理している。
- 2 自分にとって重要な言葉を四角や丸で囲み、食品と栄養素の働きとの関係を線でつないで整理している。
- 3 自分にとって分からない言葉を四角や丸で囲み、食品と栄養素の働きとの関係を線でつないで整理している。
- 4 自分にとって重要な言葉を四角や丸で囲み、運動と栄養素の働きとの関係を線でつないで整理している。

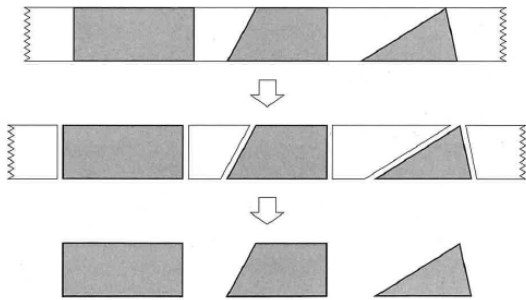
② 小学校第6学年【算数】「図形」「知識・技能」「思考・判断・表現」

2

えいたさんたちは、テープを持っています。テープの上の直線と下の直線
は平行で、テープのはばはどれも等しくなっています。



えいたさんたちは、下のようにテープを直線で切って、いろいろな図形を
つくりました。



切り方によって、いろいろな図形ができますね。

(1) ゆいさんは、下のようにテープを直線で切って、㊸、㊹、㊺、㊻の
ような四角形をつくります。



㊸、㊹、㊺、㊻について、どのような四角形なのかを、次のようにまと
めます。

㊸、㊹、㊺、㊻はどれも です。

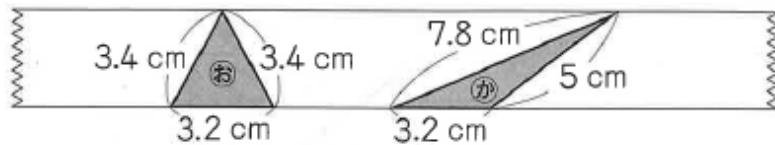
なぜなら、 だからです。

上の①にあてはまるものを、下の 1 から 5 までの中から 1 つ選んで、
その番号を書きましょう。また、上の②にあてはまるものを、下の 6 から
10 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 長方形
- 2 正方形
- ① 3 台形
- 4 平行四辺形
- 5 ひし形

- 6 向かい合った2組の辺が平行な四角形
- 7 向かい合った1組の辺が平行な四角形
- ② 8 4つの辺の長さが等しい四角形
- 9 向かい合った辺の長さが等しい四角形
- 10 向かい合った角の大きさが等しい四角形

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊼と㊽の2つの
三角形をつくります。



上の㊼と㊽の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。

下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ㊼の面積のほうが大きい。
- 2 ㊽の面積のほうが大きい。
- 3 ㊼と㊽の面積は等しい。
- 4 ㊼と㊽の面積は、このままでは比べることができない。

③中学校第3学年【国語】 「言葉の特徴や使い方に関する事項」「知識・技能」
「我が国の言語文化に関する事項」「知識・技能」

二 線部のひらがなを漢字に直し、楷書^{かぎしよ}でいねいに書きなさい。

【判じ絵】について 山田 光一

1. はじめに
学校図書館の本で、「判じ絵」というものがあることを知った。「判じ絵」には具体的にどのようなものがあるのか、また、「判じ絵」がいつ生まれ、どのように現代に伝わったのかに興味をもち、詳しく調べることにした。

2. 調査方法
学校図書館、地域の図書館、インターネットで情報を集めた。

3. 調査結果

■「判じ絵」とは何か
「判じ絵」とは、描かれている絵や記号などが何を意味しているかを解読して楽しむものである。

(ア) ただし、【図1】のように、描かれているもの【図1】ザルと意味しているものが異なるため、解読する際には、「判じる」こと、つまり、知っていることをもとに「おしえて考える」ことが必要になる。(イ) 言ってみれば、なぜなぞやクイズのようなものなのである。(ウ) また、「判じ絵」の起源を調べたところ、平安時代後期から行われていた「ことば遊び」だと考えられていることが分かった。(エ) そして、江戸時代に庶民の間に広まる中で様々なものが生まれ、浮世絵ともつながりの深い文化として定着していったという。(オ) さらに明治に時代が移っても、人々の娯楽として親しまれ、現代でも雑誌の挿絵やテレビのクイズ番組などで見ることができる。

■「判じ絵」の解読の面白さ
「判じ絵」の解読の仕方について、具体的に例を挙げて説明する。

【図2】 スズメ

【図3】 は、

③ 山田さんは、国語の時間に、言葉に関して興味をもったことをレポートにまとめています。次は、山田さんが書いているレポートの「下書きの一部」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

一 (原文)の「線部」を現代仮名遣いに直し、全てひらがなで書きなさい。

【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】

わか、竹取りじいさんと呼ばれる人がいた。名はミヤツコ。時には、讃岐の造麻呂と、もつともらしく名乗ったりする。野や山に出かけて、竹を取ってきて、さまざまの品を作る。

笠、竿、箆、籠、筆、箱、筒、箸。

筒は料理用。そのほか、すだれ、ふるい、かんざし、どれも竹カンムリの字だ。

自分でも作り、職人たちに売ることもある。竹については、くわしいのだ。

ある日、竹の林のなかで、一本の光るのをみつけた。ふしぎなことだと、そばへ寄つてよく見ると、竹の筒のなかに明るいものがあるらしい。

その部分を、ていねいに割ってみる。手なれた仕事だ。なかには、手のひらに乗るような小さな女の子が、すわっていた。まことに、かわいらしい。

(最新)「竹取物語」によらば

【授業で読んだ「竹取物語」の一部】

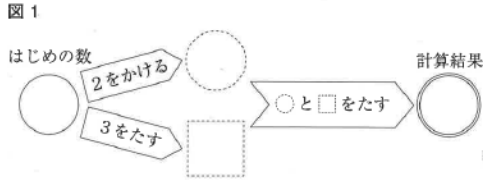
(原文)
今は昔、竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹を取りつづ、よろづのことに使ひけり。名をば、さぬきの造となもいひける。その竹の中に、もと光る竹をむ一筋ありける。あやしがりて、寄りて見ると、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いどうつくしつてあたり。

(現代語訳)
今ではもう昔のことだが、竹取の翁という者がいた。野や山に分け入って竹を取っては、いろいろなことに使っていた。名前を、さぬきのみやつこといった。その竹の中に、根もとの光る竹が一本あった。不思議に思つて、近寄つて見ると、筒の中が光っている。それを見ると、三寸ほどの人が、とてもかわいらしい様子で座っている。

④ 石井さんは、国語の時間に、「竹取物語」を読みました。そのあと、学校図書館で、現代語で書かれた「竹取物語」を見付け、読み比べてみました。次は、「授業で読んだ「竹取物語」の一部」の(原文)とその(現代語訳)、「学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

④ 中学校第3学年【数学】「数と式」「思考・判断・表現」
「図形」「思考判断表現」「知識・技能」

6 次の図1のように、はじめの数として○に整数を入れて計算し、計算結果を求めます。



夏希さんは、はじめの数として○にいろいろな整数を入れて計算しています。例えば、はじめの数が1、4、-5のときは、それぞれ下のような計算になります。

計算の例

はじめの数が1のとき



はじめの数が4のとき



はじめの数が-5のとき



9 次の図1のように、CA = CBの二等辺三角形ABCと、 $\triangle ABC \cong \triangle DEF$ となるような $\triangle DEF$ の2つの三角形を厚紙で作ります。

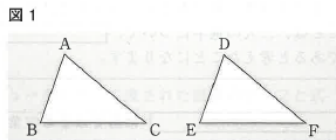
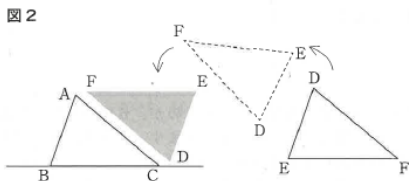


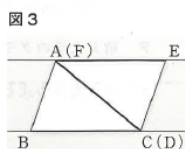
図1の2つの三角形の厚紙を使って、次の方法1と方法2でそれぞれ2つの直線をひきます。

方法1

① $\triangle ABC$ を置いて、直線BCをひく。そして、図2のように、 $\triangle DEF$ を回して、点Fを点Aに、点Dを点Cに重ねる。



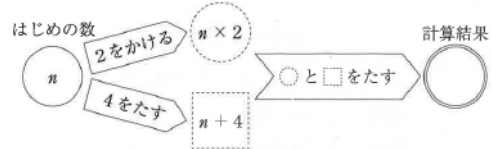
② 図3のように、点Aと点Fが重なった点をAとして、直線AEをひく。また、点Cと点Dが重なった点をCとする。



(3) 夏希さんは、7ページの図1の「2をかける」のかける数「2」は変えずに、「3をたす」のたす数「3」を4の倍数である「4」や「8」に変えれば、計算結果がいつでも4の倍数になると考えました。そして、はじめの数としてどんな整数を入れても「はじめの数にける数が2、たす数が4ならば、計算結果はいつでも4の倍数になる」と予想しました。

そこで、夏希さんは、はじめの数として入れる整数を n とし、次の図3をかき、下のように計算しました。

図3



夏希さんの計算

はじめの数として入れる整数を n とすると、はじめの数に2をかけた数は $n \times 2$ 、4をたした数は $n + 4$ と表される。計算結果は、

$$\begin{aligned} & n \times 2 + (n + 4) \\ &= 2n + n + 4 \\ &= 3n + 4 \end{aligned}$$

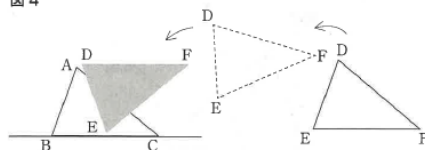
計算結果が $3n + 4$ となることから、はじめの数としてどんな整数を入れても「はじめの数にける数が2、たす数が4ならば、計算結果はいつでも4の倍数になる」という予想は成り立たないことがわかります。

上の夏希さんの計算をもとに考えたとき、はじめの数にける数がいくつ、たす数がいくつならば、計算結果はいつでも4の倍数になると予想できますか。「～ならば、……になる。」という形で書きなさい。

方法2

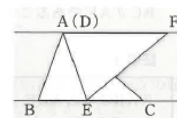
① $\triangle ABC$ を置いて、直線BCをひく。そして、図4のように、 $\triangle DEF$ を回して、点Dを点Aに、点Eを直線BC上に置く。ただし、点Eは点Bと重ならないように置く。

図4



② 図5のように、点Aと点Dが重なった点をAとして、直線AFをひく。

図5



優奈さんは、方法1の直線BCと直線AE、方法2の直線BCと直線AFがそれぞれ平行になるのではないかと考え、調べることにしました。

次の(1)、(2)の各問に答えなさい。

(1) 優奈さんは、前ページの方法1の直線BCと直線AEが平行になるかどうかを調べるために、右の図6をかきました。図6の $\triangle ABC$ と $\triangle CEA$ は、それぞれ $CA = CB$ 、 $AC = AE$ で、 $\triangle ABC \cong \triangle CEA$ です。

図6

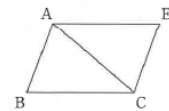
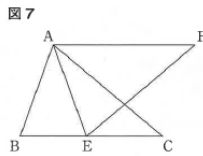


図6において、 $BC \parallel AE$ であることは、すでにわかっている $\triangle ABC \cong \triangle CEA$ をもとにして、同位角または錯角が等しいことを示すことで証明できます。 $BC \parallel AE$ であることを証明しなさい。

(2) 優奈さんは、前ページの方法2の直線BCと直線AFが平行になるかどうかを調べるために、次の図7をかきました。図7の△ABCと△AEFは、それぞれCA = CB、FA = FEで、△ABC ≡ △AEFです。この図において、優奈さんはBC // AFであることを証明することにしました。

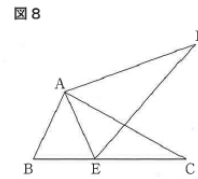


BC // AFであることは、次のように証明できます。

証明 1

△ABC ≡ △AEFより、合同な図形の対応する辺と角はそれぞれ等しいから、
 $AB = AE$ ……①
 $\angle ABC = \angle AEF$ ……②
 △AEFにおいて、二等辺三角形の底角は等しいから、
 $\angle EAF = \angle AEF$ ……③
 ②、③より、
 $\angle ABC = \angle EAF$ ……④
 また、①より、△ABEは二等辺三角形である。
 二等辺三角形の底角は等しいから、
 $\angle ABE = \angle AEB$ ……⑤
 $\angle ABE = \angle ABC$ だから、④、⑤より、
 $\angle EAF = \angle AEB$
 よって、錯角が等しいから、
 $BC // AF$

次に、優奈さんは、19ページの図1の2つの三角形を△ABC ≡ △DEFであることは変えずに、二等辺三角形ではない三角形に変えました。この場合も方法2でひいた2つの直線が平行になるかどうかを確かめたところ、2つの直線は平行になりませんでした。なぜ平行にならなくなったのかを調べるために、次の図8をかきました。図8の△ABCと△AEFは二等辺三角形ではなく、△ABC ≡ △AEFです。



優奈さんは、図8でBC // AFとならないのは、前ページの証明1の①から⑤のどれかが成り立たないからだと考えました。図8のような二等辺三角形ではない合同な2つの三角形の場合には、 $\angle EAF = \angle AEB$ とならないため、BC // AFとなりません。このことは、証明1をもとに、次のように説明することができます。

二等辺三角形ではない合同な2つの三角形の場合には、証明1の **I** が成り立たないから、**II** が成り立たない。よって、 $\angle EAF = \angle AEB$ とならないから、BC // AFとならない。


上の **I** には証明1の①、②、③のどれか1つが、**II** には証明1の④、⑤のどちらか1つが当てはまります。**I**、**II** に当てはまるものをそれぞれ書きなさい。

⑤ 中学校第3学年【英語】「書くこと」「思考・判断・表現」

8 英語の授業で、ブラウン先生が作成した文章が学習者用端末に送信されました。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

(2) ブラウン先生の質問に対するあなたの考えと理由を英語で簡潔に書きなさい。

Today we see many kinds of robots around us. They are helpful. When I went shopping, I saw a robot and it was working as a guide. I could talk to the robot in English or other languages. At some restaurants, robots bring our meals. They can carry many plates at one time. Thanks to them, the restaurant doesn't need a lot of staff members. We have robot pets, too. We can have them even if we are busy with work or we live in small apartments. People will have fun if they live with robot pets. As I explained, robots can change many people's lives for the better. Do you agree with me? Why or why not?



※ 下の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

(注) plate: 皿 even if ~: たとえ～だとしても
 apartment: アパート agree with: ~に賛成する

<調査結果のポイント>

【小学校国語】

- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができている。
- 「読むこと」の領域において、目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかに課題が見られた。
- 「話すこと・聞くこと」の設問では、必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることに課題が見られた。

【中学校国語】

- 「読むこと」の領域では、観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えたり、文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができていた。
- 「我が国の言語文化に関する事項」の領域では、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことや古典の原文と現代語の文章とを対応させて、内容を捉えることに課題が見られた。

<調査結果のポイント>

【小学校算数】

- 「変化と関係」に関する設問では、伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができていた。
- 「数と計算」に関する設問では、加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができていた。
- 「図形」の領域では、台形の意味や性質について、高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題が見られた。

【中学校数学】

- 「関数」の領域では、事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈すること、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することはできていた。
- 「図形」の領域では、ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明したり、条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ったりすることに課題が見られた。

<調査結果のポイント>

【中学校英語】

- 「聞くこと」の領域において、情報を正確に聞き取ったり、日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ったりすることができていた。
- 「書くこと」の設問では、社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことに課題が見られた。

3 質問紙調査の結果

(1) 質問紙調査の肯定値

① 「肯定値」とは

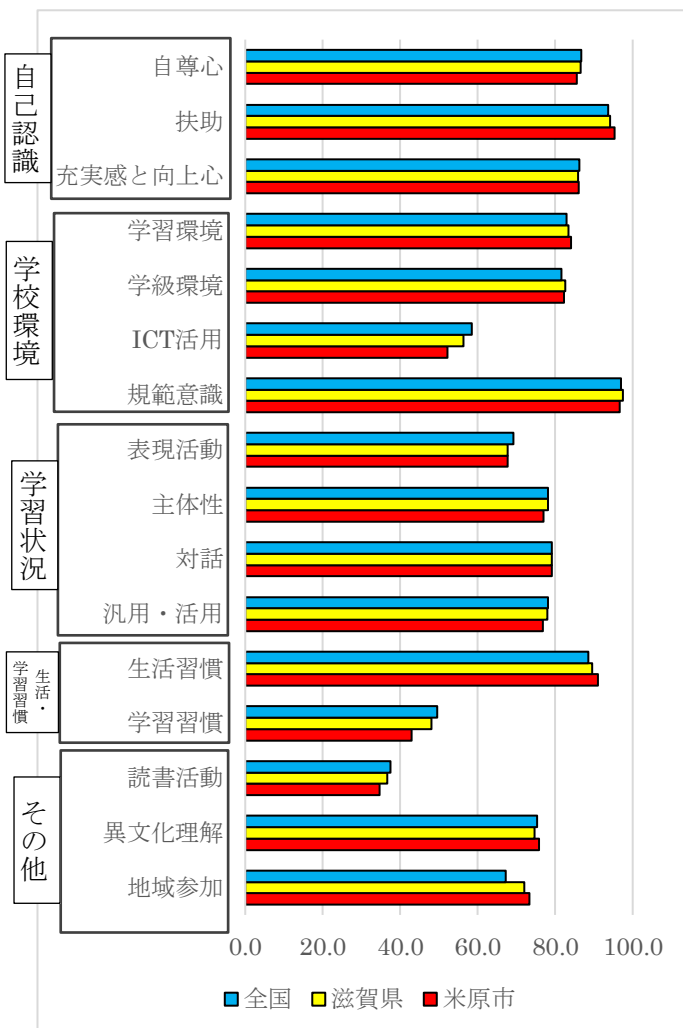
各質問の回答について「強い肯定」「弱い肯定」で回答した児童生徒の割合

② カテゴリー分類

- I 自己認識 ⇒ 「自尊心」「扶助」「充実感と向上心」
- II 学校環境 ⇒ 「学習環境」「学級環境」「ICT活用」「規範意識」
- III 学習状況 ⇒ 「表現活動」「主体性」「対話」「汎用・活用」
- IV 生活・学習習慣 ⇒ 「生活習慣」「学習習慣」
- V その他 ⇒ 「読書活動」「異文化理解」「地域参加」

※各教科に関することや解答時間、などの質問は集計から除外。

③ 小学校第6学年の肯定値



・最も肯定値が高い質問

「朝食を毎日食べていますか。」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」97.3

・最も肯定値が低い質問

「新聞を読んでいますか。」10.4

・全国と比較して肯定値が高い質問

「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」71.0(+13.2)

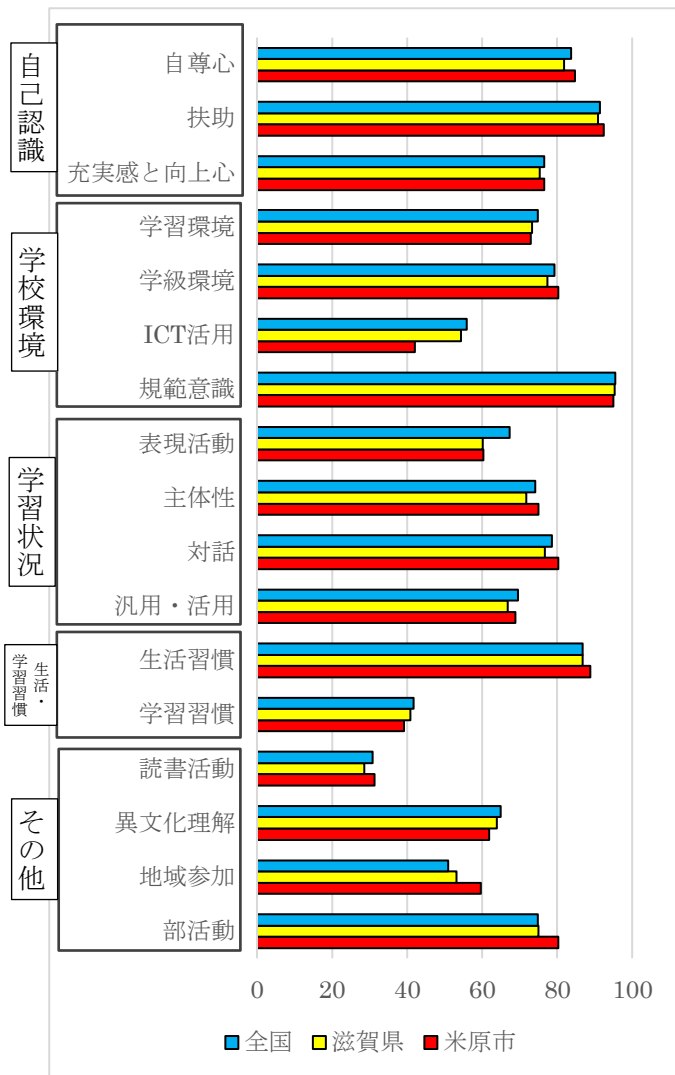
「英語の勉強は好きですか。」77.8(+8.5)

・全国と比較して肯定値が低い質問

「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。」47.9(-14.5)
 「土曜や日曜など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」13.7 (-11.0)

「生活習慣」「自尊心」「充実感と向上心」「扶助」「規範意識」「学習環境」「学級環境」の値が8割を超えて良好である。全国と比較すると、「地域参加」の値が高く、「ICT活用」「学習習慣」に課題が見られる。改善案としては、学習内容や調べた内容について、プレゼンテーションソフト等のICTを使ってまとめ、発表すること、家庭学習に進んで取り組みたくなるような課題にしたり、家庭に呼びかけながら、連携したりすることが挙げられる。

④ 中学校第3学年の肯定値



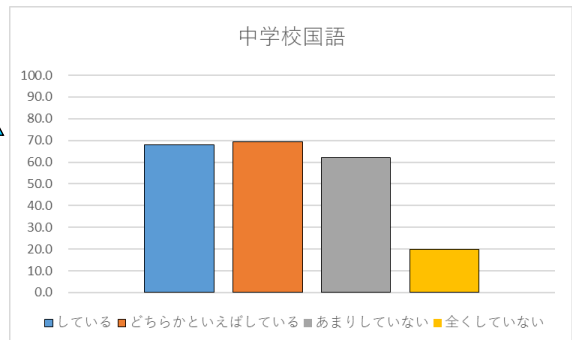
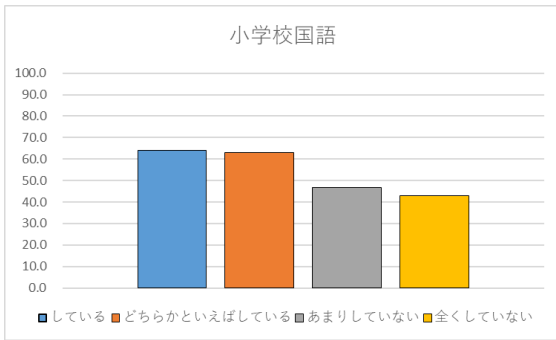
- ・最も肯定値が高い質問
「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。」95.0
- ・最も肯定値が低い質問
「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除く)」10.0
- ・全国と比較して肯定値が高い質問
「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」50.0(+12.0)
「普段(月曜日から金曜日)、平均して何日学校の部活動に参加していますか。」80.6(+8.0)
- ・全国と比較して肯定値が低い質問
「1, 2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」22.3(-38.8)

「生活習慣」「自尊心」「扶助」「規範意識」「学級環境」「対話」「部活動」の値が8割を超えて良好である。多くの項目で全国平均を上回っているが、全国と比較すると、「地域参加」の値が特に高く、「ICT活用」「表現活動」に大きな課題がある。改善案としては、授業後の振り返りにおいてICTを活用し、友だちの考えや学びから、自分の考えを再構築する活動を習慣化すること、調べたことをプレゼンテーションにまとめ、仲間や地域の方などに伝える活動を仕組むことなどが挙げられる。

(2) 学力調査結果とのクロス集計

【Ⅳ 生活・学習習慣】(質問紙調査における児童生徒が回答した選択肢別の国語の平均正答率)

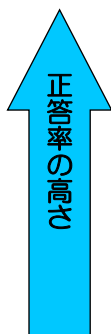
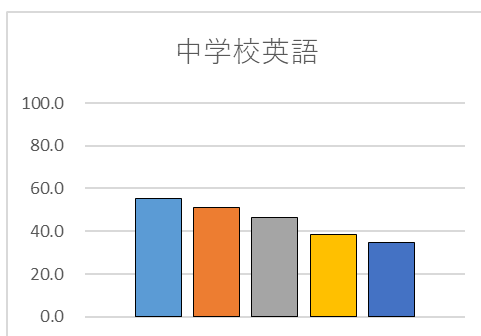
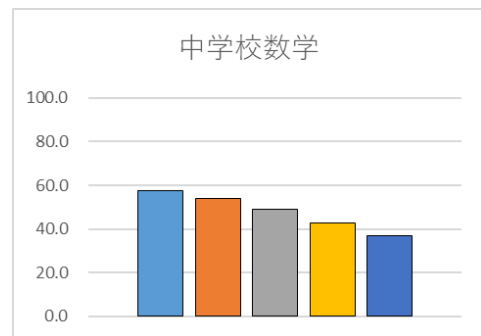
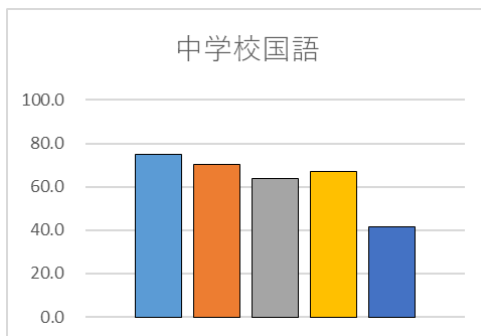
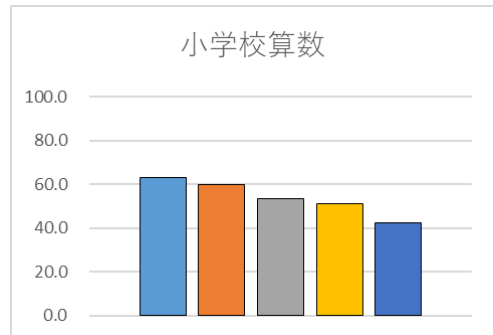
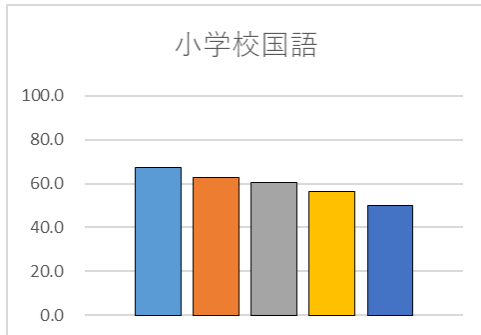
① 「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。」



・児童生徒ともに、毎日同じくらいの時間に起きている児童生徒ほど、国語の平均正答率が高い傾向がある。

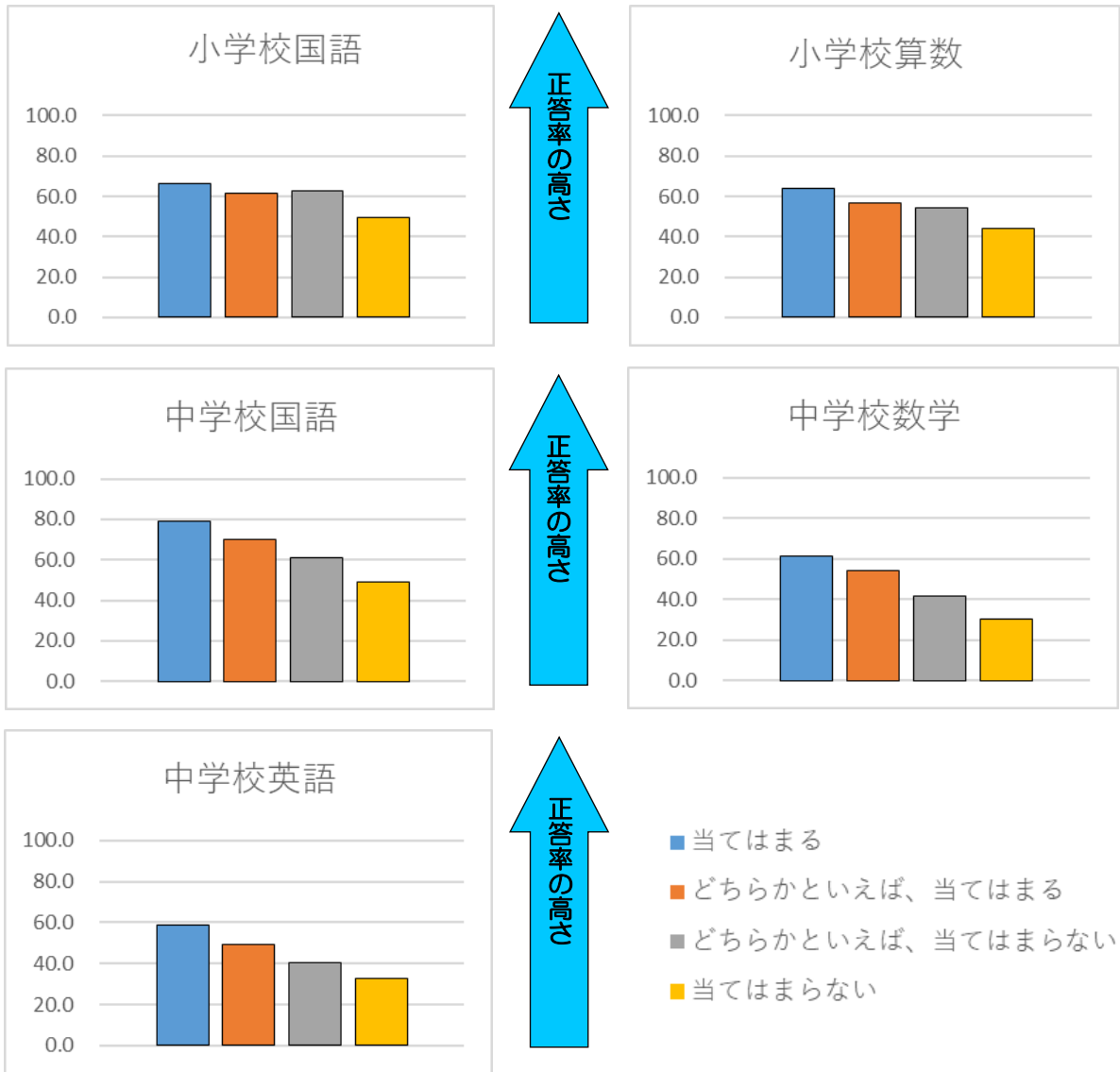
【Ⅱ 学習状況】(質問紙調査における児童生徒が回答した選択肢別の各教科の平均正答率)

② 「5年生(中学2年)までに受けた授業で、自分の考えを公表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」

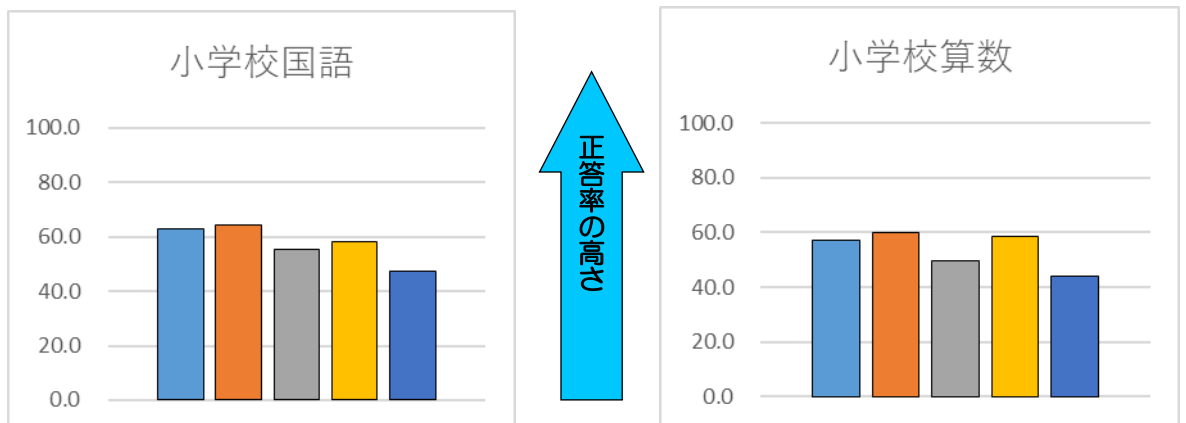


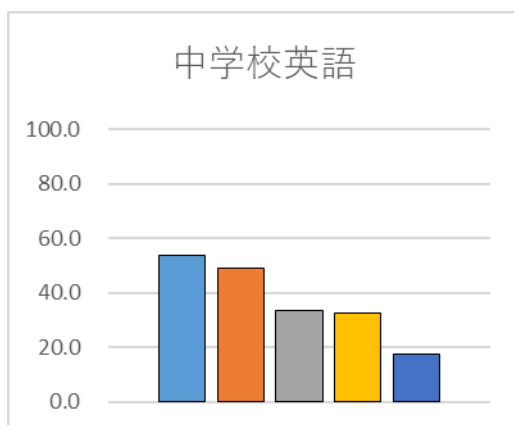
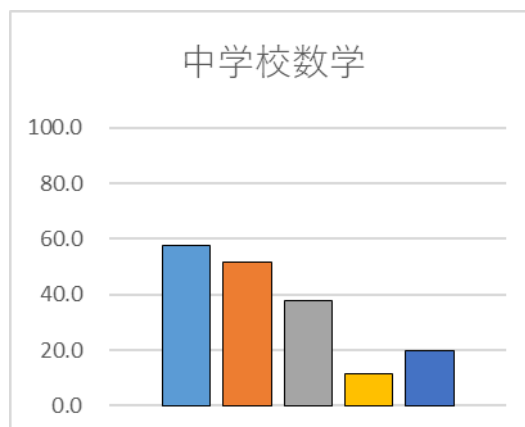
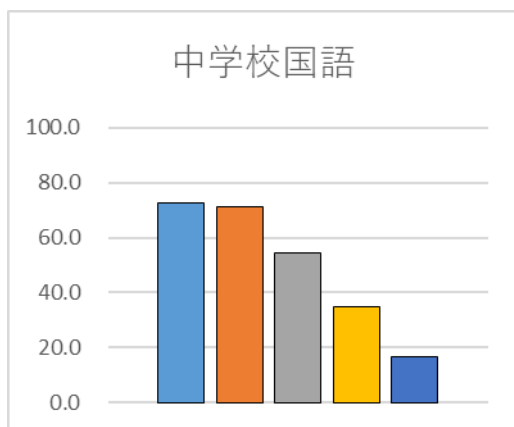
- 発表していた
- どちらかといえば発表していた
- どちらかといえば発表していなかった
- 発表していなかった
- 考えを公表する機会はなかった

③ 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」



④ 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」





- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない
- 学級の友達との間で話し合う活動を行っていない

- ・自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していると回答した児童生徒ほど、どの教科においても平均正答率が高い傾向がある。
- ・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した児童生徒ほど、どの教科においても平均正答率が高い傾向がある。
- ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した児童生徒ほど、どの教科においても平均正答率が高い傾向がある。